

数学	課題分析 (学力調査結果、定期考査、授業の実態等)	授業改善策	新学習指導要領に向けて (移行措置対応を含む)
1年	<p>【生徒の理解力の差】 ○生徒の理解力の差が大きいため、生徒が集中できるようなメリハリのある授業の工夫が必要である。</p> <p>【基礎・基本の定着】 ○小学校の内容や基本的な計算など、基礎・基本が定着していない生徒に対する補充指導の工夫が必要である。</p> <p>【ICT機器の導入】 ○各教室に導入されたプロジェクターやノートパソコンを活用すれば、授業展開の幅を広げることができる。</p>	<p>【理解度に応じた活動ができる環境づくり】 ○理解できている生徒が、理解できていない生徒に教える活動を含むグループ活動やペア活動等を取り入れる。</p> <p>【学力向上支援講師との連携】 ○学力向上支援講師と連携をとり、授業での練習の時間にサポートをしてもらう。また、演習の時間を多く確保し、個別指導ができる時間を増やす。</p> <p>【ICT機器の活用】 ○板書で書いていたものをプロジェクターに映し出すことで、机間指導の時間を増やす。</p>	<p>【対話的な活動】 ○問題の解き方や考え方など、生徒同士での会話を増やして、伝える力を伸ばすとともに理解を深める。その際、それぞれの活動内容や活動時間など、クラスの特性に応じて設定をする。</p> <p>【他教科との関わり】 ○単元・問題に応じて他の教科と関係するものを取り上げることで、様々な視点をもたせるとともに、日常に活かそうとする姿勢を養う。</p>
2年	<p>「児童・生徒の学力向上を図るための調査(令和元年7月)」の結果より</p> <p>【基礎・基本の定着】 ○技能、知識・理解ともに都の平均を4pt以上、上回っているが、定着していない生徒が多いのが実態である。</p> <p>【思考・判断・表現力】 ○都の平均を6pt上回っているが、正答率が36.0%であり、課題がある。</p> <p>「その他」 【家庭学習】 ○定期考査前だけ学習したり、宿題を学校でやるなど、家庭学習習慣が身につけていない生徒が多い。</p>	<p>【スモールステップで形成的評価】 ○小テストなどを通して、生徒が自分の習得度を知り、学習活動を調整し、的確な復習を促していく。</p> <p>【家庭学習習慣】 ○予習ノートや問題集、レポートなど学校外でじっくり学習する機会を設けるように促していく。</p> <p>【根拠を基に筋道立てて説明】 ○発言時に、結論だけではなく、根拠を述べさせていく。 ○問題演習やレポートにおいて、筋道立てて説明する手立てを提供していく。</p>	<p>【論理的な説明】 ○数学的な表現を用いて、根拠を明らかにし、論理的に説明し伝え合う活動を取り入れたい。プリントなどを工夫することで、課題を解決するために用いる知識や解決の過程を明確にする手立てを与える。</p> <p>【統計的分析の良さ】 ○既習内容と統計学との結びつきに気づかせ、社会事象の統計的分析によって得られる結果の有用性に触れさせる。</p>
3年	<p>「全国学力・学習状況調査(平成31年4月)」の結果より</p> <p>【表やグラフの読み取り】 ○表やグラフから問題解決の方法を数学的に説明する力に課題が見られた。</p> <p>【言葉の意味】 ○表にまとめられた値から、最頻値を求める問題では、「最頻値」という言葉がきちんと理解できていないこと生徒が全国・都の平均より5%低かった。</p> <p>【文字式の説明】 ○文字式を使った説明の問題では、完答となっている割合は全国・都よりも2ポイント高いが、誤答であるもので、最終形態になっていない説明が多くなっている。どこまで記載すればよいかわからない生徒が多いようである。</p>	<p>【説明の文章を作る時間の設定】 ○表やグラフ等を使う問題では、単に答えを求めるのではなく、解法の道筋も記載させるようにする。また、グループ学習で説明ができる生徒には、説明をさせていく。</p> <p>【言葉のチェックを行う】 ○テストでは文言を問う問題もあるが、授業中でも文言の確認を行うために、掲示物を用意して常に見られる状況をつくる。</p> <p>【文字式の説明の書き方】 ○定型の説明方法を示すことで、説明の書き方はわかりやすくなるが、自分で考えないようになる。そこで、順序を示し自分で考えながら説明が書けるようにしていく。</p>	<p>【生徒間での対話】 ○個人で考えたことを、意見交換したり、議論することで今まで知らなかったこと解法などに気付かせる。</p> <p>【重要語句の提示の工夫】 ○重要語句を常に掲示することで、自ら確認しようとする意欲を高める。</p> <p>【課題の追究】 ○課題を解くだけでなく、習得した知識に関連付けてより深く理解させるために、何が身についたのか振り返りの時間を設定する。</p>